

徳島県のでんかん地域連携体制整備事業

徳島大学病院 てんかんセンター 森健治, 多田恵曜

まとめ

- ・ 徳島県でんかん治療医療連絡協議会を開催し、てんかん診療に関わる医療機関リストを作成し、ホームページ上で掲載した。また、緊急カードを作成した。
- ・ 診療連絡協議会、ネットワーク研究会や各症例を通して、多職種の連携が徐々に深まっている。特に支援学校での出張講座を開催することに繋がった。今後は働く場の機会拡充にむけた連携も構築したい。
- ・ 拠点病院の機能強化、行政、医療機関、福祉施設間の連携構築を強化していく計画である。
- ・ (1)てんかん診療機関・福祉保健のレベル向上、(2)てんかん地域診療連携の構築、(3)てんかんに関する啓発活動の充実、(4)相談および指導体制の向上、(5)てんかんに対する精神症状への対応、(6)トランジションに対する対応、(7)災害への対策整備の7つの目標を設定した。

1. 概要

本事業では(1)てんかん診療機関・福祉保健のレベル向上、(2)てんかん地域診療連携の構築、(3)てんかんに関する啓発活動の充実、(4)相談および指導体制の向上、(5)てんかんに対する精神症状への対応、(6)トランジションに対する対応、(7)災害への対策整備の7つの目標を設定し、目標の実現に向け実施する事業の内容を設定する。

2. てんかんセンター診療実績

新患者は2018年157人(小児25人、成人132人)、2019年147人(小児21人、成人126人)。ビデオ脳波モニタリングは2018年60件(小児22件、成人38件)、2019年は70人(小児36人、成人34人)。手術件数は2018年10件、2019年10件とほぼ同ペース。てんかん相談件数は2018年220件、2019年254件と増加傾向にある。

3. てんかん診療機関・福祉保健の向上を目的とした活動

てんかん患者が、より正確な診断及び適切な治療を受けられるためには、てんかん専門医のみならず、神経医を中心とした医師全体の知識の向上が必要である。徳島県下の医療機関の診療向上に継続的に取り組む。

(1) 診療施設のスキルアップ

- ・ 徳島大学病院てんかんセンター、二次診療施設、一次診療施設のてんかん診療に関するスキルアップを目指す
- ・ 徳島大学病院てんかんセンターは広島大学病院てんかんセンターともwebカンファレンスや診療参加を行い、てんかんセンター診療の質を向上に努めている。
- ・ てんかんセンターにおける症例検討会、てんかんに関する看護師研修会を定期的かつ継続的に行う。第3回徳島脳波セミナー2019(2019.6.16、参加人数 58名)、第1回徳島てんかん教育セミナー(2019.9.18、参加人数 30名)を実施した。今後も継続的に開催する

- ・他職種連携によって、生活の質を全般的に改善することが可能な体制を作る

(2) 学校や各種施設職員向け専門職のためのてんかん講習会

- ・てんかん発作時の対応、日常生活指導
- ・特別支援学校の教員等や学校医等
- ・国府支援学校および阿南支援学校へ出張講座を行った(2019.8.20、参加者は各50名)
- ・城南高校での出張講座(2020.2.19)を予定している

4. てんかん診療連携構築を目的とした活動

(1)第1回(2018.2.24)および第2回徳島てんかん診療ネットワーク研究会(2019.5.11、参加人数57名)では、徳島県全体でのてんかん診療連携を検討することを目的として開催した。徳島県でのてんかん医療連携を検討する会であり、行政および教育関係の職員が参加し、顔を見える連携構築に有用であった。第1回は広島県、第2回は鳥取県のてんかん診療ネットワークに関する取り組みを講演頂いた。また、支援学校の養護教諭が「てんかんを持つ児童・生徒への支援について」の講演がなされ、支援学校への出張講座を行うきっかけとなった。また、緊急カードを作成した。発作時の対応できる病院との連携を構築する。

(2)てんかん治療医療連携協議会の設置

てんかん治療医療連携協議会を2019.1.14、2020.1.13に実施した。連携体制の構築を計画した。てんかん診療に関わる問題点の抽出及びてんかん診療に関わる医療機関リストの作成することとなった。構成は徳島大学てんかんセンター、二次診療施設、一次診療施設の医師、てんかん診療コーディネーター(ソーシャルワーカー)、徳島県保健福祉部、精神保健福祉センター、保健所、てんかん患者およびその家族から構成される。開催頻度は1回/年で、2020年1月13日に実施した。

(3)緊急カードを作成した。発作が起きた際の本人確認や連絡先を記載したカードを作成した。医療連携にも活用する。

5. てんかんに関する啓発活動

てんかん患者とその家族、地域住民を対象にてんかんに関する正しい理解、適切な治療などを学び、てんかんに関する理解の促進を図るために市民公開講座を行っている。日本てんかん協会徳島県支部とも協力している。ただ、現時点では一般市民への啓発が困難な状態である。

開催状況:2016年4月10日(参加者72名)、2017年2月11日(参加者576名)、2018年4月1日(参加者74名)、2019年3月24日(参加者82名)に実施し、診療医による個別相談も行っている

- ・てんかん市民公開講座の開催(1回/年):2020年3月29日開催予定
- ・運転免許センターにおいても講演会を実施予定:2020年3月

10日予定

・ポスター、パンフレットの作成、活用

6. てんかん患者と家族に対する相談および指導体制の向上を目的とした活動

・徳島県下の相談件数、相談内容、対応方法を共有し、問題点や課題を抽出し、解決策へと繋げる。
・雇用機関や教育機関との連携を構築・「徳島県てんかん診療実施医療一覧」を作成したこともあり、医療連携、患者支援、小児科領域におけるトランジションへの対応について、更なる強化を図る。
・支援を必要としているにも関わらず、支援に繋がっていない患者・家族の拾い上げ、および支援

7. てんかん患者の精神症状に対する対応

・精神科医によるてんかん外来・外科治療前後に行う精神科医の診察・てんかん症例合同検討会
・てんかんを専門とする精神科医の育成・てんかん発作がおさまっているのに生活の質が改善しない症例の検出と支援・てんかん患者の生活支援を可能にするような多施設連携の枠組み作り・てんかん患者の精神症状の啓発(市民公開講座、てんかん診療連絡協議会)

8. トランジションに対する対応

・徳島てんかん診療ネットワーク研究会、てんかん診療連絡協議会等を通して県内でてんかん診療が可能な医療機関のリストアップを行い、各施設の連携強化を行う
・徳島大学病院てんかんセンターおよび患者支援センターを中心として移行時の受け入れ先施設との連絡調整を行う
・市民公開講座や教育セミナー、脳波セミナー、症例検討会等を通して内外への啓発活動および教育を行い、てんかん診療のニーズを強調するとともに、診療に携わる医療関係者の教育を行う

9. 災害への対策整備

・2019年2月1日に徳島災害医療フォーラムを開催し、東北大学大学院医学系研究科 てんかん学分野の中里 信和先生に「てんかんの最新シンプル診療と災害対策」についてご講演いただいた。
・患者および家族への啓発活動:2019年3月24日のてんかん市民公開講座において、てんかん事業計画のご紹介と災害への備えについて実施した。2020年3月29日開催予定の市民公開講座でも同様に啓発を行う。
・日本てんかん協会や病院間、行政などとの地域連携システム・支援協力体制の構築
・災害発生時の対応マニュアルの作成、研修・訓練などによる人材育成の実施
・抗てんかん薬の備蓄については県が決定しており、バルプロ酸やフェノバルが中心でレベチラセタムやセルシンなどの備蓄がなされておらず、剤型も錠剤のみであった。小児への対応や備蓄内容を見直してもらうように県へ要請した。